「鋼構造物常温溶射研究会創立 25 周年に当たって」

ものつくり大学 名誉教授
博士（工学） 近藤 照夫

本研究会は 2000 年（平成 12 年）4 月に創設されており、本年 4 月をもって創立 25 周年を迎えたことになり、25 周年を迎えられたことは本会の創設時から企画・運営をいただきました先輩諸兄の皆様方によるご尽力の賜物であり、深謝申し上げます。同時に、会員の皆様とご一緒に衷心よりお慶び申し上げます。

私事ではあるが、2016 年にご逝去された池田 甫前会長の残された任期を引継ぐ形で、2017 年 6 月に開催された総会において筆者が理事会長の職を任せられ、すでに 7 年間の経過している。その後、2019 年度の定時総会と同日に開催された創立 20 周年記念式典は令和元年がスタートした直後であり、日本の国内は祝賀ムードにあったかと記憶している。その際に、新たな時代へと向かう本会の理事会長を務めていくことに対して、責任の重大さを改めて痛感したことを覚えている。

しかし、その時には思いもよらぬ新型コロナウイルス感染症 COVID-19 の世界的な大流行（パンデミック）に見舞われ、日本国内においても翌年の 2020 年 2 月からは目に見えない感染に対する大きな恐怖に襲われた。同年 4 月 7 日には第 1 回目の緊急事態宣言が発出されて、外出の自粛要請、公共施設の使用制限、事業者に対する休業要請、飲食店などの営業時間短縮に対する要請・命令、イベントの開催制限などが要請・指示された。さらに、臨時医療施設開設のための土地・建物の使用や医薬品・マスクなどの売渡しに関する命令も出されることになり、国民生活や社会経済活動に大きな制約を強いられた。10 回ほどにわたる感染の拡大と縮小を繰り返して、昨年（2023 年）5 月 8 日からは感染症法における分類が 2 類から 5 類に変更された。この変更により、政府による一律の規制は廃止されて感染防止は個人の判断に委ねられることになり、国民生活や社会経済活動はめまぐるしい復活を示している。

本研究会の活動もコロナ禍による大きな制約を受けて、2020 年度定時総会はメール審議による開催を余儀なくされて、本会最大事業である「常温金属溶射管理技士」の資格制度の継続に大きな制約を受けた。セミナーへの参加を必須とする新規資格認定は、2020 年度と 2021 年度の 2 年間は断念せざるを得ず、資格の更新認定は課題に対する小論文に対する評価として継続をして来た。2022 年度にはワクチン接種推進等の政策により、感染症に対する未知の恐怖が落ち着きを見せはじめ、感染防止対策を講じて本会のセミナーも再開に踏み切った。この際には、会員企業をはじめ本会の関係者および常温金属溶射に関連が深い方々にご理解をいただき、コロナ禍前の受講者と同程度の参加をいただくことができ、衷心より御礼申し上げます。

コロナ禍の間は、資格認定以外の本会における事業活動も大きな制約を受けたが、2021年3月にはリモート会議に対して世界的な活用されている「Zoom ミーティングシステム」を本会にも導入した。これにより、企画委員会、技術委員会および理事会の会議をリモート開催して、本会の事業活動を復活させることにした。特に、技術委員会においては、2021年3月以降現在に至るまで全ての委員会をリモート開催して、以下のような成果を継続的に発信している。

- ①常温金属溶射技術と SDGs の関連
- ②実施工への常温金属溶射の採用者（発注者）に対するアンケート
- ③「常温金属溶射設計・施工・補修マニュアル（第7版）」の改訂審議と原稿執筆
上記の成果概要は、本講演においてもご紹介させていただく。

世界を襲ったコロナ禍は大きな犠牲と制約をもたらすことになったが、反面大きな変革を推進することになったと考えられる。本会で活用しているリモート会議のシステムは、コロナ禍前には海外では一部採用されていたが、日本国内ではほとんど普及していなかった。しかし、休校を余儀なくされた学校現場では、2020年5月には多くの学校で導入されて、筆者も連休の間にインターネット検索により内容を理解したうえで、連休明けからは3年間にわたって、自宅からの講義を継続した。当然、学会関係、国土交通省関係および諸団体における委員会も、リモート会議による開催を継続して来た。

また、この間に世界情勢も大きく動揺しており、ロシアによるウクライナ侵略やイスラエルとパレスチナの紛争など多くの犠牲者が発生している戦闘、衝突の危機が続く朝鮮半島情勢、中国と台湾の緊張関係、そして米国内における激しい党派対立などがあげられる。さらに、歴史的な円安と株価の高騰が継続する中で、諸物価の顕著な高騰が継続しており、「2024年問題」とされる運輸、建設、医療分野に対する時間外労働規制が推進されている。

以上のような変遷の中で、世界的な注目を集めている生成 AI を含めたデジタル化を推進する DX、および極端な気象変化を生じている地球温暖化（沸騰化）防止を主体とする GX がめまぐるしく推進されており、大きな変革の時代が進行している。

本講演では、上述した内容を踏まえて以下のようなお話を考えている。

- (1) 世界的な動向
地球温暖化の防止および新たな感染症の出現
- (2) 建設分野の現状と動き
建設投資および DX の推進
- (3) 変革する時代における本会の持続可能性
SDGs を背景とする企画・運営

本講演ではスライドを用いて、上記のような内容に対して筆者の私見を含めて述べさせていただき、聴講される皆様からのご意見やご叱責を賜れば幸いである。